

令和3年度事業計画

資金の運用による果実を事業運営の柱としている当財団にとっては、長期間続く超低金利下での資産運用は誠に厳しい状態にある。特に日本に於けるコロナ感染症対策の不確実性が経済に及ぼす影響が予測不能で令和3年度の事業は運用収入の減少が拡大し、実質収支は厳しい結果になる見込みである。今年度も、資産運用面では最近の米ドル円高傾向を受けて比較的高利回りを維持していた債券のクーポン利率の減少が見られるものの豪ドルなどの円安・中国経済の回復もあり計画立案が難しい状況である。今後の運用収入はさらに厳しい状況で昨年よりリモート会議、在宅勤務を導入し費用面での見直しも実施している。

こうした厳しい環境下ではあるが公益財団としての使命を考え、令和3年度事業計画予算は自然科学研究助成(公1)、褒賞(公2)、音楽(公4)は前年比費用面で選考委員会等のリモート実施等の見直しを実施し、調査研究(公3)は今後の予備的費用を計上した。

令和3年度の事業概要は以下のとおりである。

事業概要

(1) 自然科学研究助成(公1)

① 学術研究助成(第34回松尾学術研究助成)

対象研究分野 原子分子物理学及び量子エレクトロニクスの基礎に関する実験的・理論的研究。

助成対象者 大学等の研究機関において自然科学分野の研究に従事している若手研究者

推薦者 財団の定める全国の大学、研究機関、関係学会等

助成金額 総額 2,000 万円

件数 5~6 件(1 件当り 200~400 万円)

募集期間 4 月 1 日~7 月 31 日

審査・決定 自然科学選考委員会の選考を経て、理事会において決定する。(9 月下旬予定)

② 研究集会・国際共同研究の開催及びこれらへの参加に対する助成

対象研究分野 前記学術研究助成の分野

助成対象者 研究集会開催責任者、国際共同研究にあつては代表研究者
海外の国際会議に出席し、対象研究分野の研究論文発表を行う若手研究者

助成費 総額 50 万円(2~3 件)

募集 随時受付

審査・決定 選考委員長の審査を経て、理事長が決定する。

(2)褒賞（公2）

①松尾財団宅間宏記念学術賞

授賞対象者 原子分子物理学と量子エレクトロニクスの研究で特に業績が顕著と認められる研究者(若手研究者を優先)

推薦者 財団の定める全国の大学、研究機関、関係学会等

賞金と件数 原則として1件 賞金200万円

募集期間 4月1日～7月31日

審査・決定 審査は前記学術研究助成の選考委員会が当り、理事会において決定する。

②（堀素夫賞）

授賞対象者 確率・統計分野で、特に数理的な研究業績が顕著と認められる研究者。
年齢不問

推薦者 関係する分野の学識経験者

賞金と件数 原則として1件 賞金200万円

推薦期間 追って決定

審査・決定 追って決定

(3)調査研究（公3）

公3研究活動は人類の文化における自然科学研究の価値を、自然科学と人文科学の両面で正しく評価する基盤を確立し、その成果を世に問う出版への積みあげ活動であるが、今後の方向性を検討するアイテム捜しの予備費として各月1万円を計上する。

(4)音楽助成（公4）

①音楽助成(松尾音楽助成)

優れた若手弦楽四重奏団の育成を目的とする音楽助成で、当財団の特色ある助成として実施する。

対象 若手の弦楽四重奏団(平均年齢35歳以下)

推薦者 財団の定める音楽大学、管弦楽団、又は財団役員を含む音楽界有識者

助成金額 総額400万円(助成期間1年)

助成団体 助成団体2～3団体

募集期間 4月1日～12月24日

審査・決定 書類選考の後、翌年2月オーディションを行い音楽選考委員会の審査を経て、理事会において決定する。

②コンサートの開催

すでに松尾音楽助成を受けた団体の研修成果の発表の場として、一般聴衆を対象とした入場無料のまつおコンサートを開催する。(翌年2月、よみうり大手町ホール)

選考委員会

自然科学選考委員会(学術研究助成・褒賞)

委員長 加藤 義章 (光産業創成大学院大学特任教授)

委員 北野 正雄 (京都大学副学長)

山崎 泰規 (理化学研究所副理事・ユニットリーダー)

渡辺 信一 (電気通信大学教授)

白田 耕藏 (電気通信大学特任教授)

音楽選考委員会

委員長 原田 幸一郎 (桐朋学園大学特命教授)

委員 大谷 康子 (東京音楽大学教授)

川崎 和憲 (東京藝術大学教授)

澤 和樹 (東京藝術大学学長)

山崎 伸子 (桐朋学園大学特任教授)

以上

令和3年度収支予算書(事業区分別経理)

(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

(単位:千円)

	公益目的事業会計						法人会計	合計
	公1	公2	公3	公4	共通	小計		
	自然科学助成	褒賞	調査研究	音楽助成				
I 一般正味財産増減の部								
1.経常増減の部								
(1)経常収益								
①基本財産運用益								
基本財産利息	8,192	1,777	39	2,783	645	13,436	13,436	26,872
②特定資産運用益								
特定資産利息	5,790	1,256	28	1,967	456	9,497	4,070	13,567
③受取寄付金						0		0
④雑収益						0	9	9
経常収益計	13,982	3,033	67	4,750	1,101	22,933	17,515	40,448
(2)経常費用								
①.事業費								
助成費	20,500			5,220		25,720		25,720
褒賞費		4,000				4,000		4,000
調査研究費			120			120		120
選考費	1,138	522		1,540		3,200		3,200
役員報酬	1,470	490		490		2,450		2,450
給料手当	469	117		821		1,407		1,407
退職給付費用	284	94		95		473		473
法定福利費					440	440		440
会議費	714	102				816		816
旅費交通費	116	35		116		267		267
通信運搬費	231	47		171		449		449
消耗什器備品費					15	15		15
事務用消耗品費	21	4		17		42		42
印刷製本費	24	4		14		42		42
借室費					1,510	1,510		1,510
②管理費								
役員報酬						0	2,450	2,450
給料手当						0	867	867
退職給付費用						0	472	472
法定福利費						0	440	440
会議費							570	570
旅費交通費						0	203	203
通信運搬費						0	400	400
消耗什器備品費						0	100	100
事務用消耗品費						0	100	100
印刷製本費						0	468	468
借室費						0	1,510	1,510
図書費						0	50	50
雑費						0	822	822
経常費用計	24,967	5,415	120	8,484	1,965	40,951	8,452	49,403
評価損益等調整前	-10,985	-2,382	-53	-3,734	-864	-18,018	9,063	-8,955
基本財産評価損益等								
特定資産評価損益等								
評価損益等計	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	-10,985	-2,382	-53	-3,734	-864	-18,018	9,063	-8,955
2.経常外増減額								0
(1)経常外収益								0
(2)経常外費用								0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0	0
当期一般正味財産増減	-10,985	-2,382	-53	-3,734	-864	-18,018	9,063	-8,955
II 指定正味財産増減の部						0		0
当期指定正味財産増減額								
III 当期正味財産増減額	-10,985	-2,382	-53	-3,734	-864	-18,018	9,063	-8,955